

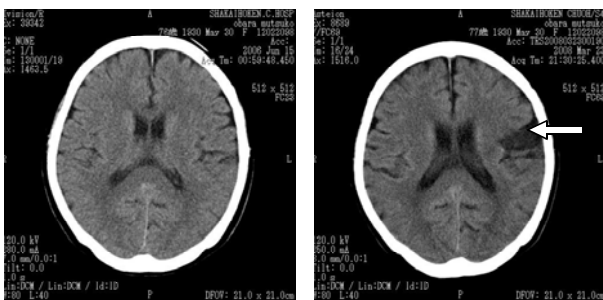
放射線科医はこんな仕事をしています

放射線科部長 舘野 円

総合病院には多くの診療科があります。社会保険中央総合病院にも、種々の専門領域に細分化された内科や外科、および小児科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻科、整形外科など、さまざまな診療科が掲げられています。その中に「放射線科」があることにお気づきでしょうか？ 当院の放射線科では4名の医師が診療に従事しています。でも、「放射線科」の医師がどんな仕事をしているのかは、病院の職員にもあまり知られていないようです。

私たち放射線科医は、「放射線診断」と「放射線治療」を担当しています。

放射線診断



正常(脳CT画像)

脳梗塞(脳CT画像)

エスカレーターで地下一階に降りると、放射線部があります。ここでは骨や胸のレントゲン撮影、骨密度測定をはじめとするさまざまなX線を利用した検査が行われています。

「放射線診断」を専門とする医師は、X線を用いたコンピュータ断層像(CT)や核磁気共鳴を利用したコンピュータ断層像(MRI)、放射性同位元素を利用した核医学検査(RI)、血管造影といった、主に大型の放射線機器を用いる検査を行っています。

検査を行っている、と書きましたが、機器を操作しているのは、大抵の場合“診療放射線技師”という資格をもつ人々です。私たち放射線科医は、適切な検査を施行するための計画を立て、必要な指示を出し、検査に関連した診察や

さまざまな処置を行います。検査が安全に、円滑に行われるように気を配ります。そして、検査によって得られたCTなどのたくさんの画像を、一コマコマ隅々まで丁寧に観察し、解析して必要な情報を取り出し、主治医に結果を報告します。これを「読影」と呼んでいます。当院で行われるCT、MRI、RI検査はすべて放射線科医が「読影」しています。

「放射線診断」を専門とする放射線科医は、さまざまな診療科からの依頼を受けて検査を行っていますので、それなりに幅広い知識が必要とされます。検査技術も日進月歩です。各診療科の医師の要望を理解し、診療に必要な情報を提供できるよう、知識を吸収し、技術を習得するように努めています。

放射線治療

「放射線治療」を専門とする医師は、大きなエネルギーのX線を利用して、主に「がん」を治療しています。主治医からの依頼を受け、患者さまを診察した上で、どのようにX線を照射すれば、「がん」を治療し、かつ「がん」の周りの正常組織のダメージを少なく抑えられるかを考えます。これを「治療計画」と呼びます。治療は多くの場合1カ月以上かかります。治療中の患者さまを毎週診察し、主治医と連絡を取りながら、途中経過にあわせて治療計画に変更を加えるなど、細かに対応しています。

以上、大まかに放射線科医の仕事を紹介しました。私たちがみなさまに直接お会いする場面は限られていますが、より良い診療に寄与することを願って、地道に働いています。



舘野部長(CT検査室で)